

## 小松市国保ヘルスアップモデル事業 医療費分析（報告調書 別紙）

小松市国保ヘルスアップモデル事業の効果として医療費の縮減についても期待される場所であるが、これを客観的に検証するには医療費の変化を把握し分析する必要がある。

医療費に影響を与える要因としては、年齢構成（高齢化）、季節要因、住民の健康意識、受診行動、保健事業、病床数、診療パターン、医療の高度化、疾病構造などの要因が考えられる。また、医療制度の変更など、医療費をとりまく社会環境の変化によっても医療費は変化するものといえる。

このように、医療費は様々な要因によって変動するものであり一つの保健事業による医療費の動向を分析することは難しい。さらに、本事業は治療域を対象外とした保健事業であり、医療費縮減の効果は短期間で表われるものではなく、長期的な医療費動向を分析する必要がある。



は下表（表 17-1）のとおりである。

表17-1 平成14年度参加者における平成14年5月診療及び平成15年5月診療の医療費諸率

	要素	入院	入院外	調剤	合計		
					伸び率		
H14 年5月	介入群	1人当り医療費	355.0	6,299.4	611.0	7,265.5	
		受診率	0.3	60.8	9.4	70.5	
		1件当り日数	2.0	1.9	1.2	1.8	
		1日当り点数	6,018.0	547.6	545.1	572.8	
		<受診件数>	1	206	32	239	
	対照群	1人当り医療費	3,626.3	8,713.3	843.5	13,183.1	
		受診率	1.4	74.7	11.3	87.4	
		1件当り日数	9.8	2.1	1.5	2.1	
		1日当り点数	2,592.7	567.7	489.8	713.8	
		<受診件数>	15	785	119	919	
	小松市 国保一般	1人当り医療費	7,584.3	8,427.1	1,104.1	17,115.5	
		受診率	2.1	60.0	10.7	72.8	
1件当り日数		19.9	2.0	1.5	2.5		
1日当り点数		1,801.1	694.0	674.1	951.3		
<受診件数>		443	12,573	2,242	15,258		
A							
H15 年5月	介入群	1人当り医療費	471.4	7,695.2	874.0	9,040.6	
		受診率	0.3	63.4	12.1	75.8	
		1件当り日数	10.0	2.1	1.5	2.1	
		1日当り点数	1,598.0	565.9	470.3	573.9	
		<受診件数>	1	215	41	257	
	対照群	1人当り医療費	2,683.9	8,836.1	1,070.4	12,590.3	
		受診率	1.1	78.4	13.9	93.4	
		1件当り日数	8.8	2.1	1.5	2.1	
		1日当り点数	2,661.1	537.1	497.8	642.0	
		<受診件数>	12	824	146	982	
	小松市 国保一般	1人当り医療費	7,261.9	8,138.9	1,637.8	17,038.5	
		受診率	2.2	61.1	12.5	75.7	
1件当り日数		19.3	2.0	1.5	2.4		
1日当り点数		1,728.8	672.5	866.3	936.5		
<受診件数>		464	12,992	2,654	16,110		
B							
増減	介入群	1人当り医療費	116.3	1,395.8	263.0	1,775.1	24.43
		受診率	0.0	2.7	2.7	5.3	7.53
		1件当り日数	8.0	0.3	0.3	0.3	15.49
		1日当り点数	▲ 4,420.0	18.3	▲ 74.8	1.1	0.20
		<受診件数>	0	9	9	18	7.53
	対照群	1人当り医療費	▲ 942.4	122.8	226.9	▲ 592.8	▲ 4.50
		受診率	▲ 0.3	3.7	2.6	6.0	6.86
		1件当り日数	▲ 1.0	0.0	0.0	▲ 0.0	▲ 0.63
		1日当り点数	68.4	▲ 30.6	8.0	▲ 71.8	▲ 10.06
		<受診件数>	▲ 3	39	27	63	6.86
	小松市 国保一般	1人当り医療費	▲ 322.4	▲ 288.2	533.7	▲ 76.9	▲ 0.45
		受診率	0.1	1.1	1.8	2.9	3.99
1件当り日数		▲ 0.7	▲ 0.0	▲ 0.0	▲ 0.1	▲ 2.76	
1日当り点数		▲ 72.3	▲ 21.5	192.2	▲ 14.8	▲ 1.55	
<受診件数>		21	419	412	852	5.58	
B-A							

入院、入院外、調剤の合計では「一人当り医療費」をはじめとする医療費諸

率は平成14年5月と平成15年5月では対照群が「受診率」以外で何れも減少したにもかかわらず、介入群では増加した。その要因の一つとして、生活習慣病予防に対する意識の向上により早期受診等の行動につながったことが考えられる。一方で介入群の医療費諸率は対照群に比較して低く、介入群では「入院」の受診件数が少ないことその他、比較的初期段階での受診が多いのではないかと考えられる。

このように短期間の比較では医療費は縮減されていないが、生活習慣病予防に対する意識の向上や生活改善を継続することで長期的には医療費の縮減が期待される。

## (2) 平成15年度事業参加者におけるベースラインでの医療費分析

介入群は強介入の健康支援プログラム参加者273人（国保加入者）とし、医療費分析の対照群には、コントロール群106人を設定した。

ベースライン（平成14年5月診療、平成15年5月診療）での医療費データは下表（表17-2）のとおりである。

表17-2 平成15年度参加者における平成15年5月診療の医療費諸率

		要素	入院	入院外	調剤	合計
H15年 5月	介入群	1人当り医療費	565.1	6,517.3	2,041.0	9,123.4
		受診率	0.4	66.8	14.6	81.8
		1件当り日数	1.0	1.7	2.7	1.9
		1日当り点数	15,485.0	561.6	527.6	588.2
		<受診件数>	1	183	40	224
	対照群	1人当り医療費	2,222.2	6,402.8	2,180.9	10,805.9
		受診率	0.9	67.0	10.4	78.3
		1件当り日数	31.0	1.9	2.4	2.3
		1日当り点数	759.8	506.5	889.2	599.7
		<受診件数>	1	71	11	83
	小松市 国保一般	1人当り医療費	7,261.9	8,138.9	1,637.8	17,038.5
		受診率	2.2	61.1	12.5	75.7
		1件当り日数	19.3	2.0	1.5	2.4
		1日当り点数	1,728.8	672.5	866.3	936.5
	<受診件数>	464	12,992	2,654	16,110	

平成 15 年 5 月は健康支援プログラム開始前であり、この医療費データをベースラインとして今後、経年変化においてこの事業の効果をみていくこととする。

## 2 介入前、介入後の対象生活習慣病における医療費分析結果

### (1) 対象生活習慣病の医療費の分析について

ベースラインにおける医療費分析では医療費の動向を詳細に把握した分析が難しいことから、平成 15 年度においては、

① 「医科（入院、入院外）」と「調剤」のレセプトデータから、この事業の対象生活習慣病を次のとおりとした。

ア 高血圧系疾患（社会保障表章用疾病分類NO. 0901）

イ 高コレステロール系疾患（社会保障表章用疾病分類NO. 0403のうち高脂血症、高中性脂肪血症）

ウ 糖尿病（社会保障表章用疾病分類NO. 0402）

② 分析対象期間を、強介入前の 12 か月間、強介入期間の 6 か月間、強介入終了後 11 か月間に区分して医療費の変化を捉えた。

③ 分析対象期間の 1 か月当りの指標を次のとおりとした。

ア 一人当り医療費（医療費÷対象者人数）：単位 円

イ 受診率（100 人当りの件数）※件数＝レセプト枚数：単位 件

ウ 一件当り日数（診療実日数÷件数）：単位 日

エ 一日当り医療費（医療費÷診療実日数）：単位 円

但し、平成 14 年 4 月の医療費の改定及び平成 14 年 10 月 1 日の制度改正に

については分析上考慮しないこととする。

医療費の分析においては医科レセプトに記載された対象疾病を「表 17-3」のように「対象生活習慣病」「その他循環器疾患」「その他」に区分し、さらに「対象生活習慣病」は3つに疾病分類し、レセプトの総診療点数を5つの分類の該当数で按分した。

「調剤」については同一人物の同一診療月、前月、前後の診療年月の「医科」レセプトと同様の疾病に分類し、同様に按分した。

表17-3 医療費分析用疾病分類

区分	分類	疾病名	対象疾患	
対象生活習慣病	ア	高血圧性疾患	高血圧	耐糖能異常
	イ	高脂血症(高コレステロール血症)	高コレステロール	
		高中性脂肪血症	(肥満)	
	ウ	糖尿病		
その他循環器疾患	エ	虚血性心疾患	脳梗塞	
		その他の心疾患	脳動脈硬化(症)	
		くも膜下出血	その他の脳血管疾患	
		脳内出血	動脈硬化(症)	
その他	オ	その他(上記疾病以外)		

## (2) 平成14年度介入群の医療費分析結果

禁煙支援型を除いた介入群の小松市国保参加者で強介入前から強介入後期間までの分析対象期間で国保被保険者資格のあった介入群 263 人、コントロール群 96 人について分析した。分析対象者の年齢階級は表 17-4 のとおりである。

分析の対象期間は

- ① 「強介入前」を平成13年7月～平成14年6月
- ② 「強介入中」を平成14年7月～平成14年12月

③ 「強介入後」を平成15年1月～平成15年11月

として医療費の変化を比較分析した。

表17-4 平成14年度参加者の  
医療費分析対象者の年齢階級

年齢層	介入群		コントロール群	
	人数	構成比	人数	構成比
20～29歳	17	6.5%	4	4.2%
30～39歳	37	14.1%	6	6.3%
40～49歳	28	10.6%	13	13.5%
50～59歳	77	29.3%	36	37.5%
60～65歳	104	39.5%	37	38.5%
計	263	100.0%	96	100.0%

(注) 年齢基準 : 毎年4月1日現在

ア 介入群全体における強介入前後の医療費諸率の変化

(ア) 全疾病における医療費諸率の変化

介入群では、「一人当り医療費」が強介入前 6,671 円に比べ強介入中は 8,118 円と 21.7%増加し、強介入後は 8,507 円と強介入前比 27.5%大幅に増加した。

医療費諸率全体では増加傾向にあるが、「受診率」については強介入前 48.45 に比べ強介入中は 52.79 と 9.0%増加したが、強介入後は 51.95 と強介入中比 1.5%減少した。

コントロール群との比較では、医療費諸率で差があらわれなかったが、「受診率」では強介入後で 15.9 ポイントと大幅に介入群での増加が少なかった。

(図 17-1、表 17-5 参照)

(イ) 対象生活習慣病における医療費諸率の変化

介入群では、「一人当り医療費」が強介入前 471 円に比べ強介入中は 934 円、介入後は 1,578 円、(強介入前比 235.2%増)と大幅に増加した。その他の医療費諸率についても大幅に増加した。

コントロール群との比較では、医療費諸率では縮減効果が見られなかったが  
 受診率では介入群が低かった。

(図 17-2、表 17-5 参照)

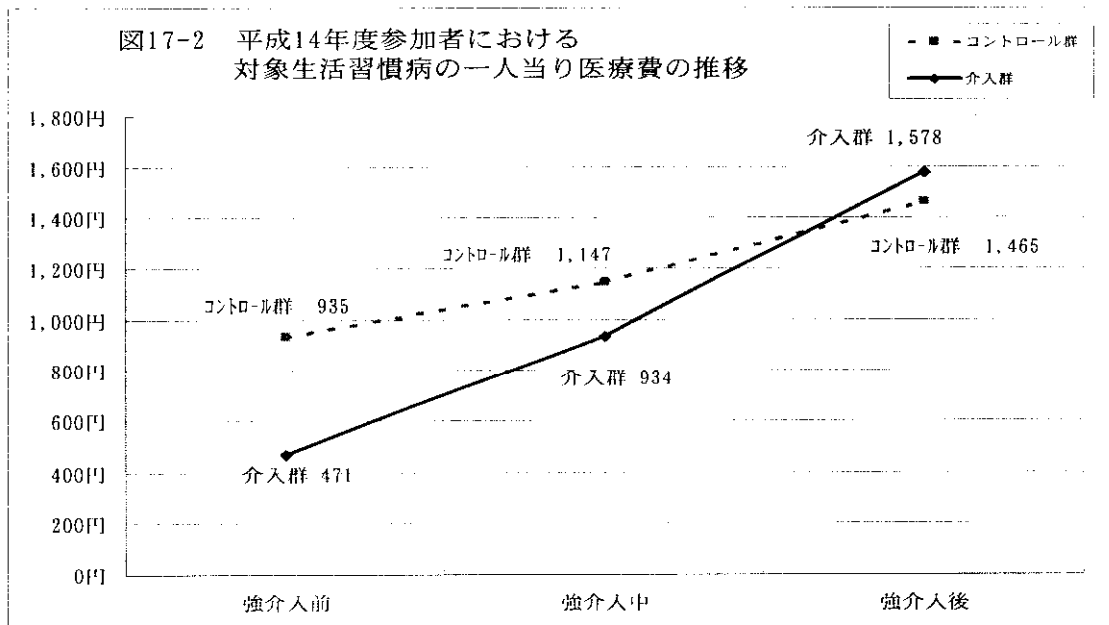
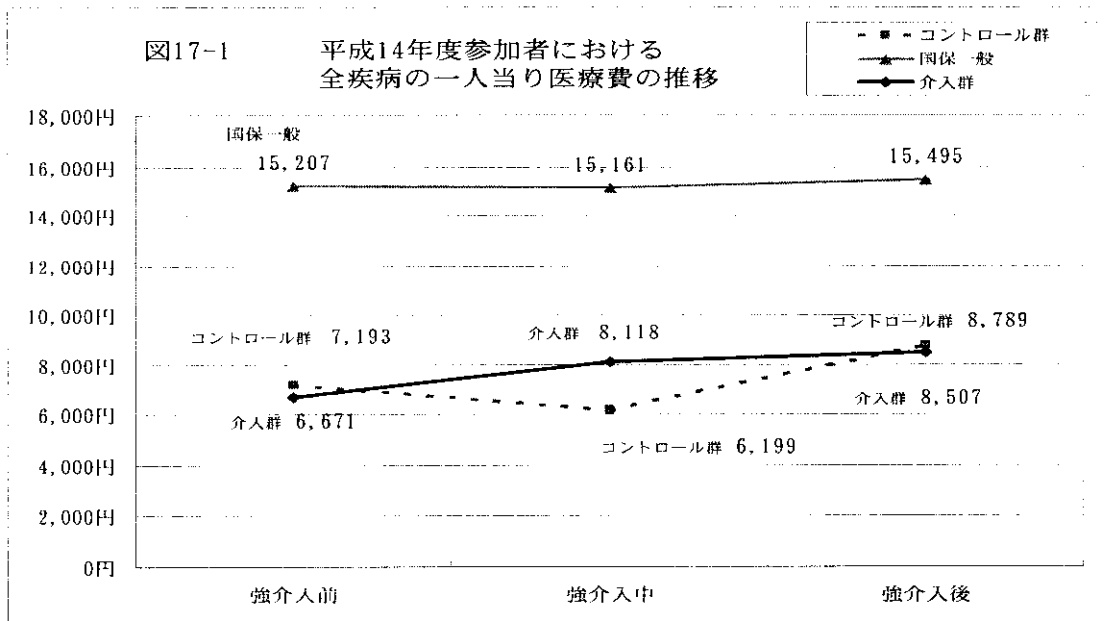




表17-5 平成14年度参加者における疾病区分別医療費諸率の推移

金額単位：円  
【医科・調剤】

疾病区分	指標	期間	介入群全体			コントロール群全体		小松市・国保一般	
			263人		コントロール群との伸び率比較① -②	96人		値	伸び率 (対強介入前)
			値	伸び率① (対強介入前)		値	伸び率② (対強介入前)		
対象生活習慣病	一人当り医療費	強介入前	471			935		/	
		強介入中	934	98.4%	75.6P	1,147	22.8%		
		強介入後	1,578	235.2%	178.5P	1,465	56.7%		
	受診率(百人当り)	強介入前	5.70			9.46			
		強介入中	8.43	47.8%	24.8P	11.63	22.9%		
		強介入後	9.33	63.6%	16.5P	13.92	47.1%		
	一件当り日数	強介入前	1.75			1.94			
		強介入中	1.92	10.0%	21.7P	1.72	▲ 11.8%		
		強介入後	2.16	23.6%	25.7P	1.90	▲ 2.1%		
	一日当り医療費	強介入前	4,717			5,079			
強介入中		5,758	22.1%	8.9P	5,747	13.2%			
強介入後		7,817	65.7%	57.0P	5,524	8.8%			
全疾病	一人当り医療費	強介入前	6,671			7,193		15,207	
		強介入中	8,118	21.7%	35.5P	6,199	▲ 13.8%	15,161	▲ 0.3%
		強介入後	8,507	27.5%	5.3P	8,789	22.2%	15,495	1.9%
	受診率(百人当り)	強介入前	48.45			49.39		61.73	
		強介入中	52.79	9.0%	7.0P	50.35	1.9%	61.26	▲ 0.8%
		強介入後	51.95	7.2%	▲ 15.9P	60.80	23.1%	64.30	4.2%
	一件当り日数	強介入前	1.74			1.77		2.50	
		強介入中	1.78	2.2%	5.0P	1.72	▲ 2.8%	2.48	▲ 0.8%
		強介入後	1.89	8.6%	8.9P	1.77	▲ 0.3%	2.37	▲ 5.2%
	一日当り医療費	強介入前	7,891			8,212		9,838	
		強介入中	8,621	9.2%	22.3P	7,142	▲ 13.0%	9,972	1.4%
		強介入後	8,644	9.5%	10.0P	8,177	▲ 0.4%	10,172	3.4%

イ 年齢階級別介入群の医療費諸率の変化

(ア) 全疾病における医療費諸率の変化

全疾病における「一人当り医療費」では、40歳代で強介入前 2,963円から強介入後の 2,917円と 1.5%（強介入前比）減少したが、その他の年代では大幅に増加した。

「受診率」については40歳代では 18.2%、60歳代では 1.3%の減少となり、「一件当り日数」についても40歳代と60歳代でそれぞれ若干の減少となった。

(表 17-6 参照)

(イ) 対象生活習慣病における医療費諸率の変化

「一人当たり医療費」では、対象の医療費が無かった 20 歳代を除いて、各年代で強介入後には強介入前の約 2~5 倍と大幅な増となった。

その他の医療費諸率では、「一日当たり医療費」が 40 歳代で 19.9% 減少、「一件当たり日数」の 50 歳代で 13.3% 減少（何れも強介入前後比）となったが、それ以外は増加となっている。

(表 17-6 参照)

図17-6 平成14年度参加者における年齢階級別介入群の医療費諸率の変化

※対強介入前の伸び率 【医科・調剤】

疾病区分	実績項目	期間	介入群の年代									
			20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代	
			17人	伸び率※	37人	伸び率※	28人	伸び率※	77人	伸び率※	104人	伸び率※
対象生活習慣病	一人当たり医療費	強介入前	0		176		63		472		761	
		強介入中	0	0.0%	225	28.0%	307	387.9%	755	59.8%	1,640	115.5%
		強介入後	0	0.0%	1,011	474.3%	239	278.6%	1,133	139.8%	2,728	258.4%
	受診率(百人当り)	強介入前	0.00		2.70		0.89		5.09		9.46	
		強介入中	0.00	0.0%	2.70	0.0%	3.57	300.0%	8.01	57.4%	13.46	42.4%
		強介入後	0.00	0.0%	3.44	27.3%	3.25	263.6%	9.33	83.4%	14.60	54.4%
	一件当たり日数	強介入前	0.00		1.67		1.00		1.96		1.69	
		強介入中	0.00	0.0%	1.33	▲ 20.0%	1.33	33.3%	1.70	▲ 13.0%	2.11	24.3%
		強介入後	0.00	0.0%	4.07	144.3%	1.30	30.0%	1.70	▲ 13.3%	2.28	34.3%
	一日当たり医療費	強介入前	0		3,908		7,057		4,746		4,749	
		強介入中	0	0.0%	6,251	60.0%	6,457	▲ 8.5%	5,537	16.7%	5,783	21.8%
		強介入後	0	0.0%	7,218	84.7%	5,652	▲ 19.9%	7,162	50.9%	8,212	72.9%
全疾病	一人当たり医療費	強介入前	4,041		4,669		2,963		4,800		10,197	
		強介入中	4,694	16.2%	6,364	36.3%	2,325	▲ 21.5%	10,053	109.4%	9,429	▲ 7.5%
		強介入後	5,891	45.8%	7,198	54.2%	2,917	▲ 1.5%	7,414	54.4%	11,715	14.9%
	受診率(百人当り)	強介入前	37.75		35.59		30.95		41.23		64.82	
		強介入中	39.22	3.9%	43.24	21.5%	24.40	▲ 21.2%	51.73	25.5%	66.83	3.1%
		強介入後	48.13	27.5%	45.95	29.1%	25.32	▲ 18.2%	48.41	17.4%	64.51	▲ 0.5%
	一件当たり日数	強介入前	1.77		2.03		1.80		1.62		1.74	
		強介入中	2.05	16.1%	2.05	1.0%	1.44	▲ 20.0%	1.81	11.8%	1.72	▲ 1.3%
		強介入後	3.97	124.6%	2.18	7.1%	1.76	▲ 2.3%	1.65	2.3%	1.72	▲ 1.3%
	一日当たり医療費	強介入前	6,062		6,458		5,324		7,201		9,038	
		強介入中	5,839	▲ 3.7%	7,172	11.1%	6,620	24.3%	10,751	49.3%	8,217	▲ 9.1%
		強介入後	3,086	▲ 49.1%	7,198	11.5%	6,559	23.2%	9,262	28.6%	10,569	16.9%

ウ 対象疾患別介入群における医療費諸率の変化

高血圧対象者における高血圧性疾患、高コレステロール対象者の高脂血症、耐糖能異常対象者の糖尿病、何れも介入群において「一人当たり医療費」は大幅に増加した。

コントロール群との比較では、「一人当り医療費」は高血圧対象者における高血圧性疾患、高コレステロール対象者の高脂血症で介入群の値が大きく、耐糖能異常対象者の糖尿病高血圧は介入群の値が大幅に小さい。

(表 17-7、17-8、17-9 参照)

図17-7 平成14年度参加者の 【医科・調剤】  
高血圧対象者における高血圧性疾患の医療費諸率の変化

疾病区分	実績項目	期間	高血圧				
			介入群		コントロール群の 伸び率との 比較①-②	コントロール群	
			値	伸び率① (対強介入前)		値	伸び率② (対強介入前)
高血圧性疾患	一人当り 医療費	強介入前	224			214	
		強介入中	777	246.5%	211.7P	288	34.8%
		強介入後	811	261.2%	247.6P	243	13.6%
	受診率 (百人当り)	強介入前	3.80			4.17	
		強介入中	7.07	85.7%	96.1P	3.74	▲ 10.3%
		強介入後	6.67	75.3%	39.9P	5.64	35.4%
	一件当り 日数	強介入前	1.56			1.83	
		強介入中	2.06	32.4%	▲ 15.0P	2.69	47.3%
		強介入後	1.89	21.1%	10.2P	2.03	11.0%
	一日当り 医療費	強介入前	3,782			2,804	
		強介入中	5,331	41.0%	38.9P	2,862	2.1%
		強介入後	6,433	70.1%	94.5P	2,120	▲ 24.4%

図17-8 平成14年度参加者の 【医科・調剤】  
高コレステロール対象者における高脂血症の医療費諸率の変化

疾病区分	実績項目	期間	高コレステロール				
			介入群		コントロール群の 伸び率との 比較①-②	コントロール群	
			値	伸び率① (対強介入前)		値	伸び率② (対強介入前)
高脂血症	一人当り 医療費	強介入前	482			131	
		強介入中	333	▲ 30.9%	▲ 419.6P	638	388.6%
		強介入後	1,076	123.1%	▲ 321.0P	710	444.1%
	受診率 (百人当り)	強介入前	6.28			4.41	
		強介入中	5.13	▲ 18.4%	▲ 118.4P	8.82	100.0%
		強介入後	7.13	13.5%	▲ 128.9P	10.70	142.4%
	一件当り 日数	強介入前	1.65			1.22	
		強介入中	1.85	11.9%	▲ 24.5P	1.67	36.4%
		強介入後	2.24	35.2%	4.3P	1.60	30.9%
	一日当り 医療費	強介入前	4,645			2,420	
		強介入中	3,511	▲ 24.4%	▲ 103.6P	4,337	79.2%
		強介入後	6,750	45.3%	▲ 26.1P	4,150	71.5%

図17-9 平成14年度参加者の耐糖能異常対象者における糖尿病の医療費諸率の変化 【医科・調剤】

疾病区分	実績項目	期間	耐糖能異常				
			介入群		コントロール群		
			19人		8人		
			値	伸び率① (対強介入前)	コントロール群の 伸び率との 比較①-②	値	伸び率② (対強介入前)
糖尿病	一人当り医療費	強介入前	60			2,259	
		強介入中	666	1,011.9%	1,050.4P	1,389	▲ 38.5%
		強介入後	336	460.6%	347.6P	4,810	112.9%
	受診率 (百人当り)	強介入前	2.19			21.88	
		強介入中	7.02	220.0%	186.7P	29.17	33.3%
		強介入後	4.78	118.2%	15.6P	44.32	102.6%
	一件当り 日数	強介入前	1.00			2.71	
		強介入中	1.50	50.0%	63.2P	2.36	▲ 13.2%
		強介入後	1.30	30.0%	29.9P	2.72	0.1%
	一日当り 医療費	強介入前	2,732			3,804	
		強介入中	6,327	131.6%	178.5P	2,020	▲ 46.9%
		強介入後	5,398	97.6%	92.7P	3,993	5.0%

(3) 平成15年度強介入群における介入前後の医療費分析結果

禁煙型を除いた介入群小松市国保参加者のうち、強介入前から強介入後までの分析対象期間で国保被保険者資格のあった介入群173人、コントロール群98人とした。

分析対象期間は

- ① 「強介入前」を平成14年7月～平成15年6月
- ② 「強介入中」を平成15年7月～平成15年11月

として医療費の変化を比較分析した。

ア 介入群全体における強介入前と強介入中の医療費諸率の変化

(ア) 全疾病における医療費諸率の変化

介入群では、「一人当り医療費」が強介入前6,920円に比べ強介入中は6,704円と3.1%減少した。「受診率」についても強介入前55.15に比べ強介

入中は 46.92 と 14.9%減少した。

コントロール群との比較では、介入群で「一人当たり医療費」が強介入中で 38.3 ポイント高い増加となっているものの、金額では介入群が少ない状態にある。「受診率」では強介入中で 6.8 ポイント介入群での減少が大きくなっている。(表 17-10 参照)

(イ) 対象生活習慣病における医療費諸率の変化

介入群では、「一人当たり医療費」が強介入前 530 円に比べ強介入中は 508 円と 4.1%減少し、「受診率」についても 6.36 から 5.88 に 7.6 パーセント減少した。

コントロール群との比較では、「一人当たり医療費」の伸び率が強介入中で 22.9 ポイント介入群の減少が小さかったが、強介入中の金額ではコントロール群の 1,396 円に比較すると介入群は 508 円と少ない。

(表 17-10 参照)

表17-10 平成15年度参加者における医療費諸率の推移

【医科・調剤】

疾病区分	実績項目	期間	介入群全体			コントロール群全体		小松市・国保一般	
			173 人		コントロール群との 伸び率の比較① -②	98 人			
			値	伸び率① (対強介入前)		値	伸び率② (対強介入前)		伸び率 (対強介入前)
対象生活習慣病	総医療費	強介入前	91,631			187,241			
	(一月当り)	強介入中	87,912	▲ 4.1%	22.9%	136,848	▲ 26.9%		
	一人当り	強介入前	530			1,911			
	医療費	強介入中	508	▲ 4.1%	22.9%	1,396	▲ 26.9%		
	受診率	強介入前	6.36			12.33			
	(百人当り)	強介入中	5.88	▲ 7.6%	▲ 30.3%	15.14	22.8%		
	一件当り	強介入前	2.07			2.74			
	日数	強介入中	2.05	▲ 0.9%	15.6%	2.29	▲ 16.5%		
	一日当り	強介入前	4,028			5,645			
	医療費	強介入中	4,220	4.8%	33.5%	4,025	▲ 28.7%		
全疾病	総医療費	強介入前	1,197,117			1,202,147		317,481,750	
	(一月当り)	強介入中	1,159,798	▲ 3.1%	38.3%	704,178	▲ 41.4%	344,568,290	8.5%
	一人当り	強介入前	6,920			12,267		15,043	
	医療費	強介入中	6,704	▲ 3.1%	38.3%	7,185	▲ 41.4%	16,174	7.5%
	受診率	強介入前	55.15			55.70		62.52	
	(百人当り)	強介入中	46.92	▲ 14.9%	▲ 6.8%	51.19	▲ 8.1%	64.95	3.9%
	一件当り	強介入前	1.97			2.16		2.42	
	日数	強介入中	1.82	▲ 7.3%	▲ 6.0%	2.13	▲ 1.3%	2.38	▲ 1.7%
	一日当り	強介入前	6,379			10,209		9,948	
	医療費	強介入中	7,836	22.8%	58.3%	6,591	▲ 35.4%	10,458	5.1%

このことから平成 14 年度介入群より平成 15 年度介入群は医療費諸率において改善傾向がみられた。その要因の一つは平成 15 年度の参加者募集において生活習慣病予防教室を介入開始当初に行い、生活習慣病およびその予防などのきめ細かな指導を行った結果、生活習慣改善への動機付けがより効果的に実施できたためと考えられる。

しかし、介入前後短期間において、健康支援プログラムの医療費における直接的効果を分析評価することは困難であり、保健事業の医療費分析の方法についてさらに研究する必要がある。

### 3 受診行動に関する調査

ベースラインでの医療費分析や強介入前後の対象生活習慣病の医療費分析を行なったが、短期間の医療費分析では直接的な効果が表われにくいので、医療費適正化に最も影響の有る「受診行動」について意識調査を行なった。

#### (1) 意識調査の実施内容

##### ア 調査対象者

平成 15 年度事業における禁煙型とフォローアップ支援型を除く介入群で強介入終了時メディカルチェックの結果報告会による指導に参加した 287 人

##### イ 調査方法

質問紙への本人記入式のアンケート調査

##### ウ 調査時期

最終メディカルチェックの結果報告会による個別指導時

エ 回答率

回答数は 219 で回答率は 76.3%

オ 回答者の属性

表 17-11 回答者の属性

区分		回答者数	構成比
保険者	国保	192人	87.7%
	政府管掌健保	19人	8.7%
	健保コマツ	8人	3.7%
性別	男性	86人	39.3%
	女性	127人	58.0%
	無回答	6人	2.7%
年齢	20歳代	9人	4.1%
	30歳代	19人	8.7%
	40歳代	17人	7.8%
	50歳代	57人	26.0%
	60歳代	110人	50.2%
	無回答	7人	3.2%
	対象疾患	高血圧	107人
	高コレステロール	83人	37.9%
	耐糖能異常	10人	4.6%
	肥満	66人	30.1%
	無回答	13人	5.9%

(2) 調査結果の概要

調査結果の集計は表 17-12 のとおりである。

①参加前後の治療経験について

ア 「事業参加前 1 年間の受診があった」と回答した人が 69 人 (31.9%)、「事業参加から現在まで受診があった」と回答した人が 71 人 (32.4%) と横ばいであった。

イ 受診した病名では、高血圧、高コレステロール、糖尿病で受診した人は事業参加前延べ 14 人 (6.3%)、参加後延べ 11 人 (5.0%) で 1.3 ポイント下がった。

ウ 参加前と参加後の治療者は減少していないが疾病別では生活習慣病が減少傾向にあり、このことが医療費にも傾向として表われている。

## ②医療機関利用傾向の変化について

ア (複数回答)「体調不良時すぐ医療機関を利用するようになった」と回答した人が 219 人中 88 人 (40.2%) で、その理由は (複数回答)「健康に関心を持つようになったから」と回答した人が 88 人中 74 人 (84.1%) と最も多く、「生活習慣に対する不安が増大したから」と回答した人が 88 人中 18 人 (20.5%) であった。

イ 「体調不良時すこし様子を見るようになった」と回答した人が 99 人 (45.2%)、で、その理由は (複数回答)、「生活習慣病に対する正しい知識を得たから」と回答した人が 99 人中 65 人 (65.7%)、「生活習慣病対策を自分で講じるようになったから」と回答した人が 47 人 (47.5%) であった。

「市販の薬で様子を見るようになった」と回答した人も 11 人 (11.1%) あった。

ウ 医療機関の利用傾向では、「体調不良時すぐ医療機関を利用するようになった」と回答した人が 88 人 (40.2%) で、医療費分析でもみられるように受診行動の促進傾向があり、医療費の増加につながった。しかし「体調不良時すこし様子を見るようになった」と回答した人も 99 人 (45.2%)、あった。

このことにより、健康支援プログラムにおいては生活習慣改善指導も重要であるが医療費の適正化面からは生活習慣病の正しい知識の普及啓発、生活習慣病予防に対する適正な指導が必要と考えられる。

16 年度においてはこの結果をふまえ、事業開始時に生活習慣病予防教室をさ



らに充実強化し、医療費適正化につなげる必要がある。

表17-12 医療費分析のための受診行動についての意識調査 結果

(1) - 1 事業参加前1年間の治療経験 <母数:219>

	回答数	回答数/母数
ある	69	31.5%
ない	148	67.6%
無回答	2	0.9%
回答数合計	219	100.0%

(1) - 2 事業参加前1年間の治療疾病 (複数回答) <母数:219>

高血圧	6	2.7%
高コレステロール	5	2.3%
糖尿病	3	1.4%
感染症	2	0.9%
虫歯、歯周疾患	36	16.4%
その他	26	11.9%
無回答	6	2.7%
回答数合計	84	34.9%

(2) - 1 事業参加から現在までの治療経験 <母数:219>

ある	71	32.4%
ない	141	64.4%
無回答	7	3.2%
回答数合計	219	100.0%

(2) - 2 事業参加から現在までの治療疾病 (複数回答) <母数:219>

高血圧	5	2.3%
高コレステロール	6	2.7%
糖尿病	0	0.0%
感染症	5	2.3%
虫歯、歯周疾患	30	13.7%
その他	30	13.7%
無回答	4	1.8%
回答数合計	80	36.5%

(3) - 1 医療機関利用傾向の変化 (複数回答) <母数:219>

体調不良時、すぐ医療機関を利用するようになった	88	40.2%
体調不良時、少し様子を見るようになった	99	45.2%
体調不良時、保健師等に相談するようになった	5	2.3%
以前と変わらない	99	45.2%
その他	9	4.1%
無回答	7	3.2%
回答数合計	307	140.2%

→ (3) - 2 すぐ医療機関を利用するようになった理由 (複数回答) <母数:88>

生活習慣に対する不安が増大	18	20.5%
健康に関心を持つようになった	74	84.1%
その他	1	1.1%
無回答	0	0.0%
回答数合計	93	105.7%

→ (3) - 3 少し様子を見るようになった理由 (複数回答) <母数:99>

生活習慣病に対する正しい知識を得た	65	65.7%
生活習慣病対策を自分で講じるようになった	47	47.5%
市販の薬で様子を見るようになった	11	11.1%
事業の担当者が相談にのってくれる	4	4.0%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
回答数合計	127	128.3%